

石川県七尾美術館だより

No.106

令和3年 夏

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM



黄金期の浮世絵 歌麿とその時代展—美人画と役者絵

7月31日(土)～9月12日(日) 会期中無休

今年も、夏の特別展の季節がやってきました。ご紹介する「歌麿とその時代展」、昨年夏に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年へ延期となりました。

昨年楽しみにされていた皆様には、大変お待たせしました。新たに知られた方も、ぜひゆっくりとお楽しみください。

江戸時代の天明・寛政期(1781～1801)は、錦絵が最も華やかに展開した時代で、浮世絵の黄金期とも呼ばれます。その黄金期を代表する絵師の一人が、美人画で一世を風靡した喜多川歌麿(1753?～1806)です。



喜多川歌麿《青楼三美人》

歌麿は背景に雲母摺を施した豪華な錦絵や、女性の顔をクローズアップして表情を豊かに表現した「美人大首絵」で注目を集め、繊細な描写による美しい仕草や、粋でオシャレな出で立ちの女性像は、たちまち大人気となりました。



東洲斎写楽《二世市川門之助伊達の与作》

また、同時期に美人画と並び人気を博したのが役者絵です。草創期の錦絵発展に貢献した勝川春章(1726～92)の一門から、役者の一瞬の表情を大胆に捉えた東洲斎写楽(生没年不詳)や、歌舞伎ファンの理想をかなえた歌川豊国(1769～1825)らの時代へと移行していきます。写楽や豊国の役者絵は、今でも人気タレントのプロマイドとして、庶民がこぞって買い求めました。



喜多川歌麿《松葉楼粧ひ 実を通す風情》

本展では、第1章《歌麿とその弟子たち》、第2章《栄之とその門人》、第3章《美人画の流れ—黄金期の浮世絵 天明・寛政期を中心として》、第4章《美人画の流れ—爛熟の化政文化 文化・文政期を中心として》、第5章《役者絵》、第6章《肉筆画》の6章構成で、歌麿とその弟子をはじめ、鳥居清長や鳥文斎栄之、謎の絵師・写楽、勝川春章ら勝川派や豊国率いる歌川派など、個性豊かな浮世絵師らによる美人画と役者絵に、肉筆画を含めた135点を一堂に展覧します。

第1章《歌麿とその弟子たち》

女性の上半身をアップにした「大首絵」は、心の内面まで表した秀作。雲母摺の背景が華やかさを引き立てる。

第2章《栄之とその門人》

立ち美人シリーズで、栄之の傑作のひとつ。細身ながら迫力がある八頭身美女。背景も雲母摺で豪華。



鳥文斎栄之《青楼美撰合 初買座敷之図 扇屋内瀧川》

第3章《美人画の流れ―黄金期の浮世絵》

天明・寛政期を中心として

清長最盛期の美人画。「辰巳芸者」は「意気」と「張り」が看板の芸者たちで、凛としている。



鳥居清長《当世遊里美人合 辰巳艶》

第4章《美人画の流れ―爛熟の化政文化》

文化・文政期を中心として



勝川春章《四世岩井半四郎の揚巻と二世市川八百蔵の助六》

大きな梅樹を

背景に、ポニーテールに髪を束ねた美女3人を描く。流行の縞模様の着物は国芳ごのみ。意気な出で立ちには、まさに国芳スタイル。



歌川国芳《梅の魁》

第5章《役者絵》

歌舞伎の演目の「助六所縁江戸桜」に取材した作品。曾我五郎時致は江戸川の助六という侠客になって、源氏の宝刀・友切丸を探して吉原へ。恋仲になった三浦屋の傾城揚巻から、吉原で豪遊する老人が所持していることを聞き出し奪い返すという人気話。

第6章《肉筆画》

「六歌仙」の見立絵。「六歌仙」とは、平安の歌人・小野小町、大友黒主、文屋康秀、喜撰法師、僧正遍照、在原業平の6人をいう。「見立絵」はいわばパロディで、誰がどの人物か「絵解き」する楽しみもある。繊細な線描で、表情、風貌、衣装などを描き分けており、藤麿の技量の高さがうかがえる。



喜多川藤麿《見立六歌仙》

《関連イベント》

※高校生以上の方は要観覧券。

◆“きもの”でミュージアム

会期中、着物（ゆかたもOK）でご観覧の方に、本展オリジナルコースターをプレゼントします。

◆記念撮影コーナー

大きなパネルの前で記念撮影。粋な江戸の町にタイムトラベルしましょう。

※画像の無断転載は禁止。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	800円	700円	300円
中学生以下	350円	300円	300円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

26th year 池田コレクション

6月26日(土)～7月25日(日) 【開催中】

※掲載作品画像は全て「池田コレクション」です。

「元明清大家臨写画帖」(部分)

当館が開館したのは平成7年(1995)のこと。それから幾星霜をへて、今年度では26年目を迎えるにいたしました。

その間所蔵作品の充実が図られ、開館時には356点だったのが、現在は800点を超えるまでに。これもひとえに多くの皆さまのご協力あつてのこと、まさしく感謝の極みです。

さて「能登の総合美術館」として、幅広く収集活動を繰り広げてきた当館。それだけに所蔵品は多岐にわたりますが、常にその中核であり続けているのが「池田コレクション」です。

「池田コレクション」は七尾市出身の実業家で美術品コレクターでもあった、池田文夫氏(1907～87)ゆかりの美術工芸品。氏が心血をそいだ蒐集品より125点が七尾



「後奈良天皇和歌懐紙」
後奈良天皇 (重要美術品)



「絵唐津平茶碗」

市に寄贈されたのは、

昭和63年

(1988)

のことでした。それが現在に続く「池田コレクション」の始まりとなったのです。

やがて同コレクションを保管・展示する施設として当館がオープン。その際「開館記念」として22点の追加寄附を受け計147点となった「池田コレクション」は、名実ともに当館展示活動の中心に位置づけられました。

以降、平成17年・23年・26年・29年にさらなる追加寄附が行われ、コレクションはいっそうパワーアップ。現在はあわせて289点となりました。まさしく「当館とともに歩みが続いている」といえるでしょう。

本展では「池田コレクション」より多彩な作品計約60点を展示。26年目を迎え、円熟味を増したコレクションをぜひ鑑賞ください。

◇観覧料

	個人	団体
一般	350円	280円
大高生	280円	220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「長谷川等伯展」無念の途中終了

4月24日から30日間開催予定の、当館恒例「長谷川等伯展」がスタートしました。親しみやすい動物表現をテーマとし、北陸初公開作品4点なども公開しました。しかしコロナ禍により、当館も残念ながら急遽12日から臨時休館となりました。

18日間で幕を閉じた「長谷川等伯展」。休館を知らずに美術館入口や駐車場まで来られたお客様も…。これから来館する予定だった皆様も含め、心からお詫び申し上げます。

また、こんなコロナ禍でも信頼してご出品くださった所蔵先や関係者へのお詫びの連絡、WEB上で掲載していただいている各位への変更対応などに追われましたが、逆に労いの言葉をいただき、ありがとうございました。改めて御礼申し上げます。

一方、鑑賞できたお客様からは「開催してくれてありがとう」「等伯の作品を観れて満足」などのお言葉がありました。こういう時だからこそ、美術や芸術の大切な役割を実感した次第です。

さて、来年はどんな作品が展示されるでしょうか♪皆さん健康第一に、来年また等伯展でお会いしましょう。職員一同、お待ちしております。

(本展図録好評販売中)



貸館催し物案内

市民ギャラリー

第53回石川県勤労者写真サロン展

7月3日(土)～7月4日(日)

初日は10時から・最終日は17時まで

主催 石川県勤労者文化協会

連絡先 同右

【平日】☎076-231-1746

【休日】☎090-2374-7907

無入料場

第26回 七尾日創展

7月8日(木)～7月11日(日)

初日は13時から・最終日は16時まで

主催 日創会

連絡先 三宅厚史

☎0767(77)1368

無入料場

【追悼】川岸不退、川岸敬蔵二人展

7月15日(木)～7月18日(日)

最終日は15時まで

主催 川岸敬蔵

連絡先 ☎0768(34)1172

無入料場

第26回 七尾美術作家協会展

7月23日(金)～7月25日(日)

最終日は16時まで

主催 七尾美術作家協会

連絡先 同右 事務局 村上

☎0767(57)1258

無入料場

陶芸 小谷内和央と仲間達

9月18日(土)～9月19日(日)

最終日は15時まで

主催 陶芸工房 田鶴海

連絡先 小谷内

☎090-4686-0480

無入料場

第27回 七尾高校同窓美術会展

9月23日(木・祝)～9月26日(日)

最終日は16時30分まで

※9月24日(金)は休館日となります。

主催 七尾高校同窓美術会

連絡先 同右事務局 今井寛

☎0767(53)3155

無入料場

2021年『映心会書作展25』

10月1日(金)～10月3日(日)

最終日は16時まで

主催 映心会

連絡先 三藤観映

☎0767(52)4051

無入料場

アートホール

シャンソンで

チャリティーコンサート

8月22日(日)開演14時

入場料 2,000円

主催 ステージY

連絡先 数内ようこ

☎090-2037-5237

なかのと奏友会ユーフォニアム・チューバ
アンサンブルコンサートin 2021秋

9月19日(日)開演14時

主催 なかのと奏友会

連絡先 荒川裕介

☎090-3768-5608

無入料場

参加者大募集!

友の会美術講座のお知らせ

「美濃焼鑑賞会」

「見て・触れて・魅力を知ろう」

昨年度はコロナ禍により中止となった「美術講座」が復活します!

昨春秋、金沢にオープンした国立工芸館の館長・唐澤昌宏氏を講師にお迎えします。当館所蔵の「池田コレクション」から、桃山～江戸時代的美濃焼を間近で鑑賞。また、美濃焼の現代陶芸作家作品を実際に手に触れてもらい、その魅力をより感じていただきます。ぜひこの機会に、その魅力をたっぷりご堪能ください。

皆様のご参加をお待ちしています。

○日時 令和3年10月3日(日)

13時30分～15時30分

○集合場所 当館エントランス

○参加費 500円(観覧料は含みません)

○定員 先着8名

○募集開始 令和3年7月31日(土) 9時～

☎0767(53)1500

能登のいのり ～ゆかりの美をとおして～

9月18日(土)～10月24日(日)

人類の歴史上、たびたび繰り返されてきた天災や疫病、戦争などの厄災。そして現在も世界は「コロナ禍」で苦しんでいます。そうした苦難の時、人びとは「信仰」に救いを求め、それらを形に表しました。本展では、そのような様々なシチュエーションにおける人びとの「いのり」が込められた品々を、能登地域ゆかりの美術工芸品を中心に紹介します。同時開催展覧会は「じんぶつ百態」。

「愛宕権現図」 長谷川信春(等伯)



2021イタリア・ボローニャ国際絵本原画展

11月6日(土)～12月12日(日) 会期中無休

毎春、イタリアの古都・ボローニャで開催される世界最大規模の児童書専門見本市「ボローニャ・チルドレンズ・ブックフェア」。このブックフェアが主催する絵本原画コンクールは、絵本のために描かれた5枚1組のイラストが審査されます。このコンクールは世界中から応募があり、イラストレーターの登竜門として、また、絵本の最新動向を知る機会として注目されています。

今年はコロナ禍の中、世界86カ国3235組の応募があり、リモートでの審査を経て、日本人作家8名を含む23の国と地域から76組のイラストレーターが入選しました。当初6月に予定されていたブックフェアはオンラインでの開催となり、ボローニャ市での入選作品の展示も残念ながら叶わず、日本での巡回展で初めて展示されることとなりました。

当館は日本海側では唯一の開催館として、24回目を迎えます。個性的でバラエティ豊かな絵本原画の世界をお楽しみください。関連イベントも予定しておりますので、次号(秋号)にて詳しく紹介いたします。



カテリーナ・ゴレリク(ロシア)



シルヴィ・ペロ(フランス)



ラケル・ブラスケス・フェルナンデス(スペイン)



あお木たかこ(日本)

◆ティールームの営業につきまして◆

当館ティールームは「新型コロナウイルス感染症」感染拡大防止対策の一環として、現在営業を休止しております。皆さまには大変ご迷惑をお掛けいたしますが、どうかご理解のほどよろしくお願い申し上げます。なお、営業再開の際はホームページ等でお知らせいたします。

石川県七尾美術館だより No.106

発行日: 令和3年7月1日
発行者: 公益財団法人七尾美術財団
〒926-0855 七尾市小丸山台一丁目1番地
TEL.0767-53-1500 FAX.0767-53-6262
<https://nanao-art-museum.jp>

表紙



上: 喜多川歌麿《両国橋 橋上の女たち》

下: 喜多川歌麿《両国橋 船あそびの女たち》

2点とも、寛政7～8年頃(1795～96頃) / 錦絵大判六枚続き(橋の上下揃い) / 中右コレクション。※画像の無断転載禁止。

両国橋の上と下の情景を、それぞれ3枚続きで描いた作品。単独でも鑑賞できますが、2点をあえて大胆に縦に並べて展示します。6枚揃って見る大画面は、一際迫力があります。